



# トヨタは社会的責任を果たせ!!

## あなたは大丈夫ですか？長時間・高密度労働

月間残業80時間が2カ月以上続くと過労死ライン（認定基準）、夜勤があるとさらに体に大きな負担となります。QC活動やサービス残業も過労死の要因です。あなたが倒れたときに上司は証言してくれるでしょうか。

2002年2月9日早朝、堤工場でグループリーダー（代行）をしていた内野さんが職場で倒れ亡くなりましたが、労基署は会社の報告をうのみにして労災と認定しませんでした。奥さんは労災認定を求めて裁判を起こしました。内野さんは海外出張したグループリーダーの代行、

### 内野さんは、訴えます。

トラブル対応、QC、インフォーマル活動など、残業や休日出勤が続き、奥さんの記録では1カ月に114時間もの残業をしていました。「夫は正規の業務以外に、職場のQCサークルのリーダーや新人教育担当もしていたが、労基署はそれらの業務の労働時間をカウントしていない」と訴えています。

## 長時間労働は、国際的にも批判的

年間総労働時間を1800時間にするのは政府の国際公約です。ところがトヨタでは2人に1人が年間360時間も残業。さらにサービス残業も摘発されました。ところがトヨタの姿勢は反省なし。県経営者協会は労働局に対し「労働時間管理は労使自治、行政は介入するな」と申し入れ。これが世界第1位の自動車メーカーの態度でしょうか。



## 誰も空気は選べない

東京では大気汚染裁判が続いています。地裁判決では排ガス被害を認めています。メーカーは「ユーザーの責任」として企業責任を拒否。しかし70年代に「経済性ならディーゼル」とガソリン車からの切り替えを大宣伝したのは自動車メーカーです。トヨタは「環境」を売り物にしていますが、「売った車」「汚してしまった空気」にも社会的責任が求められます。

### トヨタ基本理念3

私たちは、あらゆる事業活動を通じ環境保全に努め、環境と経済を両立する技術の開発と普及に取り組むとともに、社会の幅広い層との連携を図り、環境との調和ある成長を目指します。



トヨタ 渡辺社長

※写真・基本理念はトヨタホームページ <http://toyota.jp/>より引用

### 社会的責任（CSR）とは

「企業は、人権、労働、環境、腐敗防止の4つの分野において責任を果たすべきである」（国連）という世界的な考え。企業は法律を守ることは当然です。利益追求だけでなく、従業員や消費者、地域住民の声を聞き、社会的な貢献が求められています。